

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K03325

研究課題名（和文）コミュニティがカップル関係に及ぼす影響についての国際比較研究

研究課題名（英文）The impact of community on couple relationships: An international comparative study

研究代表者

浅井 継悟 (ASAI, Keigo)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40776655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、コミュニティ（地域社会）が夫婦・カップル関係に与える影響について、日本とアメリカという異なる文化背景を持つ夫婦・カップルにおける良好な関係を促進する要因と阻害する要因について検討した。その結果、日本においても、アメリカにおいても、コミュニティに対する肯定的な捉え方が良好な夫婦・カップル関係の促進要因として機能することが明らかとなった。一方、個人の不安・回避の愛着スタイルが良好な夫婦・カップル関係の阻害要因として機能することも日本とアメリカで共通していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は、夫婦・カップル関係という二者関係を捉えるのに当事者以外からの変数を想定した点である。DV、虐待など問題やその疑いが発生した際には、夫婦・カップル以外の者が介入することは決して珍しくない。本研究の結果から得られた知見は、カップルの良好な関係維持という視点や児童虐待の防止に寄与することはもちろんであるが、国際比較を行ったことで、文化的影響を受けにくい普遍的な要素を明らかにし、文化圏の異なるカップルや国際結婚したカップルの支援にも活用することができるだろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigated the impact of community on interpersonal relationships between couples, focusing on the facilitating and inhibiting factors in couples from diverse cultural backgrounds, specifically Japan and the United States. The results revealed that a positive perception of the community serves as a facilitating factor in couple relationships in both Japan and the United States. Conversely, the individual's anxious/avoidant attachment styles were identified as inhibiting factors that impede the maintenance of these relationships in both Japan and the United States.

研究分野：臨床心理学

キーワード：カップル 夫婦 家族 コミュニティ

## 1. 研究開始当初の背景

日本の夫婦・カップル関係、家族関係に関わる研究の多くは、調査対象や成果の報告が国内に閉じられており、国際的な比較研究が十分に行われていない。特に、日本は家族や夫婦のことは外から口を出すものではないという風潮が今でも見られ、児童虐待、DVなどの様々な社会問題が生じているにも関わらず、夫婦・カップル、家族に関する研究の数は諸外国と比べ圧倒的に少ない。

これまで、夫婦・カップル関係に関する研究は、当事者の関係性を2者関係から捉える研究が圧倒的に多かった。しかしながら、近年、共助(コミュニティでの助け合い)の意識の高まりや、地域のネットワークや社会資源を利用した支援の必要性も叫ばれている。

コミュニティからの支援を考える場合、個人の要因、夫婦・カップルの要因、コミュニティの要因、文化の要因といった複数の要素を考慮しなければならない。これらの点を加味した上で、異なる文化において、コミュニティからの影響がカップルに及ぼす影響について検証していくことが求められている。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究では、日本とアメリカ双方から夫婦・カップルのデータを収集し、(1) コミュニティからカップルに与える影響を加味した上で、良好な夫婦・カップル関係を促進する要因と阻害する要因を明らかにすること、(2) 国際比較を通して、普遍的な要素要素についても明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究では上記の目的を達成するために、3つの研究を行った。

(1) 他の文化圏と比較可能なコミュニティ感覚を測定する尺度の翻訳および尺度の信頼性・妥当性の検証を行った。

(2) 日本の夫婦・カップルを対象に(1)で作成した尺度も含めた調査を実施した。

(3) アメリカの夫婦・カップルを対象にした調査を実施し、(2)の日本のデータとの比較を行った。なお、研究計画を立案した時点では想定できなかった新型コロナウイルスの影響を加味する必要があるため、新型コロナウイルスへの恐怖感を測定する尺度の日本語版の作成も行い、(2)(3)の調査項目に加えた[1]。

## 4. 研究成果

研究1の結果、コミュニティ感覚を測定する Brief Sense of Community Scale(日本語版 BSCS)の信頼性と妥当性が確認された[2]。

研究2の結果、(1)個人が持つ不安・回避の愛着スタイルは、自身が感じる夫婦関係の満足感を低下させるだけでなく、パートナーが感じる夫婦関係の満足感をも低下させること、(2) コミュニティ感覚は夫婦関係の満足感と正の関連があるが、この効果にはパートナーからの効果は見られなかったことが明らかとなった。

研究3の結果、(1)アメリカにおいても、回避・不安の愛着スタイルは夫婦関係の満足感を低下させること、(2) コミュニティ感覚は夫婦関係の満足感と正の関連があるが、アメリカの方が日本よりも関連が強いことが明らかとなった。

新型コロナウイルスへの恐怖感については、日本において、男性が感じる新型コロナウイルスへの恐怖感、男性が認識する夫婦・カップル関係の満足感と負の関連があることが明らかとなった。

これらのことから、日本においてもアメリカにおいてもコミュニティ感覚は良好な夫婦・カップル関係を促進する要因として機能すること、回避・不安の愛着スタイルは良好な夫婦・カップル関係の阻害要因となることが明らかとなった。本研究で得られた基礎的な知見は、文化に関わらずコミュニティから夫婦・カップル関係を支援できる可能性を示唆していると言えるだろう。今後はこうした知見を発展させることで、文化圏の異なるカップルや国際結婚したカップルへの支援にも活用することが考えられる。

#### 引用文献

- [1] Wakashima, K., Asai, K., Kobayashi, D., Koiwa, K., Kamoshida, S., & Sakuraba, M. (2020). The Japanese version of the Fear of COVID-19 scale: Reliability, validity, and relation to coping behavior. *PloS one*, *15*(11), e0241958. doi:10.1371/journal.pone.0241958
- [2] Yu, K. R., Asai, K., Hiraizumi, T., & Wakashima, K. (2022). Japanese version of the Brief Sense of Community Scale: construct validity and reliability. *BMC Psychol* *10*, 301. doi:10.1186/s40359-022-01017-x

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Koiwa Kohei, Wakashima Koubun, Ikuta Michiko, Asai Keigo, Takagi Gen	4. 巻 17
2. 論文標題 Fear of COVID-19 infection and related factors in Japan: A comparison of college students, pregnant women, hospital nurses and the general public	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0271176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0271176	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yu Kyung-Ran, Asai Keigo, Hiraizumi Taku, Wakashima Koubun	4. 巻 10
2. 論文標題 Japanese version of the Brief Sense of Community Scale: construct validity and reliability	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-022-01017-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 野澤 朋未, 浅井 継悟	4. 巻 47
2. 論文標題 児童の認知する養育者の身内卑下呈示と自己の強みへの注目との関連	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 171 ~ 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15077/jjet.46048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Asai Konomi, Asai Keigo	4. 巻 13
2. 論文標題 Therapeutic Assessment with Brief Therapy:	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Brief Therapy and Family Science	6. 最初と最後の頁 43 ~ 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.35783/ijbf.13.1_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamoshida Saeko, Nihonmatsu Naoto, Takagi Gen, Wakashima Koubun	4. 巻 17
2. 論文標題 The relationship between family variables and family social problems during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0270210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0270210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二本松直人・斎藤昭宏・若島孔文・浅井継悟	4. 巻 19
2. 論文標題 公安職における新型コロナウイルスへの不安と対処行動の関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学大学院教育学研究科臨床心理相談室紀要	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koiwa Kohei, Wakashima Kobun, Asai Keigo, Takagi Gen, Yoshii Hatsumi	4. 巻 92
2. 論文標題 Determinants of nurses' fear of COVID-19 in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Japanese journal of psychology	6. 最初と最後の頁 442 ~ 451
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.92.20048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asai Keigo, Hiraizumi Taku, Hanzawa Reino	4. 巻 8
2. 論文標題 Reliability and validity of the Japanese version of the active-emphatic listening scale	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 59-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-020-00422-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wakashima Koubun, Asai Keigo, Kobayashi Daisuke, Koiwa Kohei, Kamoshida Saeko, Sakuraba Mayumi	4. 巻 15
2. 論文標題 The Japanese version of the Fear of COVID-19 scale: Reliability, validity, and relation to coping behavior	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 0241958 ~ 0241958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0241958	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asai Keigo, Wakashima Koubun, Toda Sayaka, Koiwa Kohei	4. 巻 4
2. 論文標題 Fear of novel coronavirus disease (COVID-19) among pregnant and infertile women in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders Reports	6. 最初と最後の頁 100104 ~ 100104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jadr.2021.100104	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asai Konomi, Asai Keigo	4. 巻 11
2. 論文標題 A pilot study to assess positive and negative post-divorce parental disclosures	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Brief Therapy and Family Science	6. 最初と最後の頁 14 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.35783/ijbf.11.1_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lin Chung Ying, Hou Wen Li, Mamun Mohammed A., Aparecido da Silva Jose, Broche Perez Yunier, Ullah Irfan, Masuyama Akihiro, Wakashima Koubun, Mailliez Melody, Carre Arnaud, Chen Yu Pin, Chang Kun Chia, Kuo Yi Jie, Soraci Paolo, Scarf Damian, Brostrom Anders, Griffiths Mark D., Pakpour Amir H.	4. 巻 0
2. 論文標題 Fear of COVID 19 Scale (FCV 19S) across countries: Measurement invariance issues	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/nop2.855	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Wakashima Koubun、Ikuta Michiko、Kamoshida Saeko、Kobayashi Daisuke、Asai Keigo、Koiwa Kohei
2. 発表標題 Family Changes in the COVID-19 Pandemic.
3. 学会等名 The 9th Conference of International Academy of Family Psychology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅井 継悟、浅井 このみ
2. 発表標題 地方の臨床と家族—心理支援における地方モデルの模索—
3. 学会等名 日本家族心理学会 第39回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田 有司・大久保 智生・半澤 礼之・鈴木 美樹江・Hou Yuejiang・浅井 継悟・都筑 学
2. 発表標題 学校適応はどのようにとらえられるのか(13) 縦断研究による適応プロセスの検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅井 継悟・板倉 憲政・浅井 このみ・小林 智・平泉 拓・兪ヨソ蘭・野口 修司・若島 孔文
2. 発表標題 東日本大震災から10年 東北大学PTGグループの支援活動を振り返る
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮尾 賢子・浅井 継悟
2. 発表標題 へき地校における教員とSCの連携・協働
3. 学会等名 日本教育支援協働学会第4回研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 若島 孔文、野口 修司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 テキスト家族心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

浅井継悟 研究室 <a href="https://keigoasai.com">https://keigoasai.com</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平泉 拓  (Hiraizumi Taku)  (00760828)	宮城大学・看護学群・准教授   (21301)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	俞 キョンラン  (Yu Kyung-Ran)  (00802133)	宮城学院女子大学・教育学部・准教授    (31307)	
研究分担者	若島 孔文  (Wakashima Koubun)  (60350352)	東北大学・教育学研究科・教授    (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関